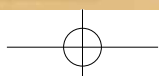


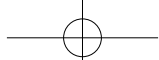
居合道 だより

第139号



初稽古会



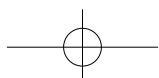


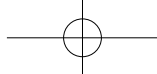
はじめに

新しい年になって早一ヶ月が過ぎた。つい正月気分が抜けないうちにある。今年目標に向かって、一步でも進んだらうかといつもこの時期に反省している。

今年は日本列島あちこちで最強寒波が襲っている。梅の開花はもう少し先だろう。かわりに、名前は梅でも別属のろう梅が、半透明でにぶくつやのある、まるで蠟細工のような花びらで香り高く咲いている。

剣友の中には剣道、杖道のみならず他の道にも励んでいる方が大勢いらっしゃる。その方々からその道の話をついたり、冊子を読ませてもらう機会がある。道だからどの道も究極の目的は同じなのだろうが、なぜか剣道界の方のお話よりもスウーッと心の中に入り込んでくる感覚がある。自分の知らない世界のことだか





はじめに

ら、素直に謙虚になれるのだろうか。

静と動の違いはあるが、最も日本的な伝統文化のひとつに千利休がはじめた茶道がある。

その茶道の冊子の中から、居合道に通じる内容をひとつ紹介したい。

茶室の中では、すでに道具による大きな美が構築されていますから、それらを動かして働く点前は、当たり前のことながら美しくなければなりません。もっとも美しい形で物を取り、もっとも美しい形で茶を点てる。

その動きには緩やかさがあり、緊張感があったかと思うと、軽やかな躍動感も必要です。

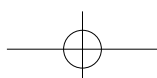
とはいっても、形だけを習得するのが点前ではありません。心に深み、豊かさなどが加わって初めて、よい点前と言えるのです。どんなに鮮やかな点前であっても、心がおごり、人を人とも思わない人の点前は、決して人に感動を与えません。

形の習得は遅くとも、心から茶碗をふき清め、よりおいしくと願う人の点前に客は感動し、感謝の気持ちを込めていただくのです。

心と形が合して成り立つのが、茶の点前作法なのです。

一方、形から心をつくりあげていくということもあります。

一つ一つ決められた動作を正しく学び、習得するうちに、いつしかそこに心が生まれてきます。繰り返し形を学ぶうちに、心も育ってくるのです。点前の作法は、茶室だけのものではない。修練の中で身についた形と心を社会でも活かす懸命さが肝要だと締めている。



主な活動と2・3月の予定

主な活動

1月 8日(祝)

居合道初稽古会 居合道部 福岡武道館
懇親会



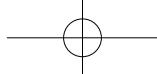
1月21日(日)

地域稽古会 居合道部 宗方 B&G



2月・3月の活動予定

2月18日(日)	県居合道部 代表者会議	かすやドーム
2月25日(日)	地域稽古会	居合道部 飯塚市庄内公民館
3月10日(土)	北九州居合道大会	北九州剣連 北九州総合体育館
3月25日(日)	福岡県居合道段位審査会	福剣連 福岡武道館



会員の声 (インタビュー)



八女地区居合道同好会 初段 新開 遥さん
一年ほど前に突然自分自身で思い立って、八女地区居合道同好会の門を叩いたという新開さんは現在初段です。

初心者教室では無く、覚悟を持って「居合道を習う！」と決めて門を叩いたようです。

現在、忙しい仕事の合間を縫って週に2回の稽古に通っています。

今年の9月をターゲットに二段昇段に向けて特訓中

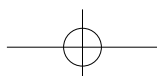
です。冬がとっても苦手ですが、夏にはめっぽう強いので9月なのだそうです。

一番楽しい時はと伺うと「スカッ！と触れた時は気持ちいい」と笑顔で答えてくれました。

使用の刀は2尺2寸5分で、少し重いなあと感じ、最初稽古を始めた3ヶ月ほどは筋肉痛で次の日に腕が上がらなかったそうです。(みんな通る道ですね〜笑)

業前は本人曰く「いや〜まだまだダメです」と言ってますが、拝見した限り、立ち姿や稽古を拝見して、集中して稽古しているなあという印象でした。

ここにもまた将来有望な若き女性剣士が修練を積んでいました。

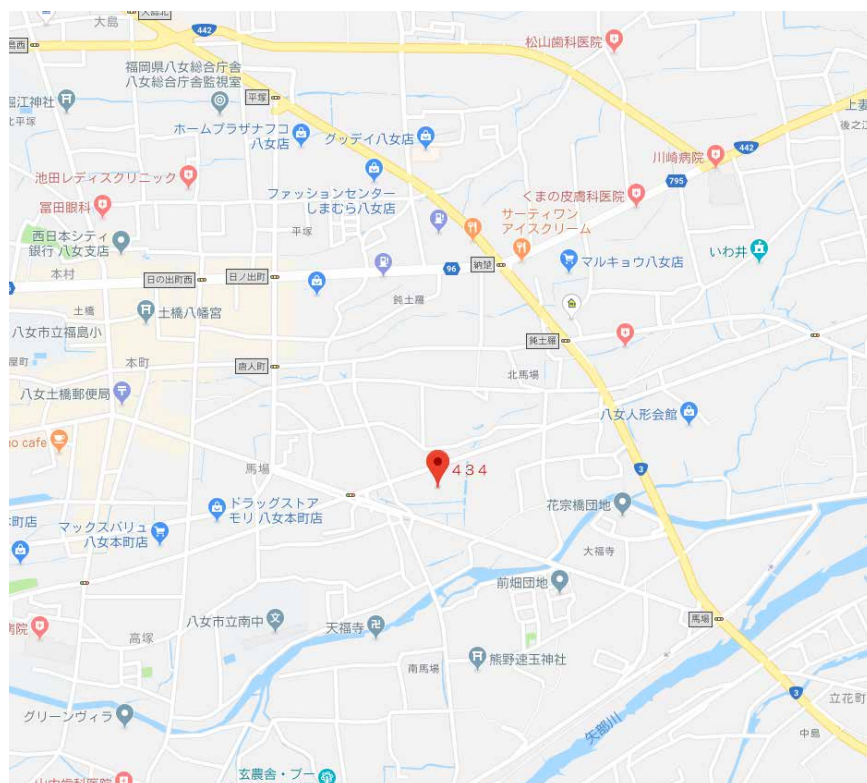


道場訪問 - 八女地区居合道同好会

教士七段 小河内先生率いる 八女地区居合道同好会にお邪魔しました。

最近まで海外に赴任されておられ、任されてから30年の間で2/3ぐらいしか指導できてないと、しかし、稽古は一つずつ細かく理合をわかりやすく説明しながら、なぜこういう動きなのか、どう考えればいいのかを、見事に説明しながら稽古しておられます。

説明をしながらお手本を示しやって見せ、その後共に抜き、少しずつ修正やアドバイスを的確に飛ばし、その場で完成させていく稽古スタイルで、一通り制定を抜いた後に、古流も同じスタイルでどんどん先に進めて、稽古するものの興味を引き、皆が「やってみたい」と思わせる指導力で終始モチベーションを維持しながら稽古するので、時間の流れ方が実に早い！



八女地区居合道同好会

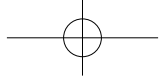
流派：夢想神伝流

指導：小川内泰生先生

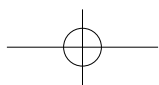
場所：八女市総合体育館

稽古日：水曜日・金曜日

時間：20:00 ~ 22:00



道場訪問・八女地区居合道同好会



[事前準備と確認事項]

刀身孔と柄孔に対し、目釘調整と密着度をチェックする。

1. 柄孔に目釘を差込み、目釘先端が鮫皮から半丸部のみ飛び出る位置、入口側は鮫皮と目釘トップが約3mm残しに調整する。
2. 刀身孔に目釘を差込み、目釘の中央が刀身孔に入口付近に密着フィットする様に目釘の太さを削り調整する。
3. 柄と刀身の密着度は目釘が無くても抜けない様に組み込む必要があり(茎の緩み対策参照)、目釘は最後の岩的存在と理解して頂きたい。
4. 目釘は竹の皮部を一辺に残る様に製作し、取付は皮側が柄頭に向けること。目釘の長さど太さ調整は、縦方向に表面を滑らかに削って仕上げる。
(茶碗の欠けらを割り削ると綺麗に仕上げる事ができる)

[使用する工具類]

小型の木槌又はプラスチックハンマーとタオルを準備する。

[目釘の装着手順]

1. 刀身の茎を柄に差し込む。(手で約10cm以上入れ、刀身を立てて持つ)
2. 柄頭又は小槌に布を巻き付け、柄頭を木槌で軽く叩くと茎が大きく柄に沈む。
(叩きによる切羽・鍔・ハバキが暴れない様に人差し指で支えながら行う)
3. 柄の目釘孔から刀身孔が少し見えたら目釘を柄孔に刺し、親指で軽く押さえ木槌で柄頭を叩いて行くと、突然目釘が孔に入りだす。
4. 目釘は押さえたまま、柄頭を叩くに連れ茎の沈み込み量が減り、叩く音もしだいに高く成り、木槌で叩く力も強くなる。
5. 叩く音が乾いたかん高い音に成り、目釘も沈まない点が茎の底到達を意味する。
6. 最後に目釘の密着を確認検証の為、目釘を軽く1回打ち装着完了です。(この動作で目釘の沈む量は0~0.5mm程度です。)



△この位置から目釘を打つと目釘が傷む。



△目釘の親指での押さえ、柄頭の打ち方。

©公益社団法人 福岡県剣道連盟・福岡県剣道連盟 居合道部

第139号 平成30年2月1日発行

発行：福岡県剣道連盟居合道部

URL: <http://riai.info/>

発行人：井手友太

〒819-1132 糸島市有田36番地-1

TEL:092-322-0847